

バックドラフトとフラッシュオーバー ?

「高気密・高断熱のエコ住宅」 こういう謳い文句のチラシを良く見ますね。確かに、省エネという観点から見ると大事なことです。ところで、5月中旬ごろテレビを見ていたら、住宅の火災について特集をしていました。住宅の火災で怖いのは「バックドラフト」と「フラッシュオーバー」だということです。二つとも高気密・高断熱に関係があるということでした。

バックドラフト 映画のタイトルで有名になりましたが、鎮火した様に見える部屋のドアを開けた途端に炎が噴出して消防士が吹き飛ばされるシーンがあったと思います。気密性の高い室内で火災が発生すると室内に空気があるうちは火災が成長しますが、酸素が少なくなると鎮火したような状態になります。しかしこの状態でも火種は残っており、可燃性のガスは室内に充満していることがあります。この状態で扉を開けると新鮮な空気が室内に入り込み、火種が着火源となり、充満した可燃性ガスが爆燃するのです。高気密の建物の内部で火災が発生した場合は鎮火したように見えても十分な注意が必要です。

フラッシュオーバー 室内の局所的な火災が数秒から数十秒のごく短時間に部屋全体に拡大する火災です。テレビでも実験をしていましたが、断熱材有の小さな箱と断熱材無しの小さな箱の内部で火災を発生させたところ、断熱材有のほうが炎の広がりが早く、室内温度が急速に上昇して、同じ時間で1000℃と400℃と倍以上の温度差になりました。この原因は断熱材により、室内の熱が外部へ伝わらず、高温になりやすく、内装材や室内の可燃物から発生する可燃性ガスに着火し急速に炎症拡大が引き起こされるというものです。

環境問題や省エネの観点から、高気密・高断熱住宅が大いにPRされていますが、こういった問題もあるのですね。人間の健康面から考えても、快適性だけを求めて過保護になるより、吉田兼好が「徒然草」で行っているように「住宅は夏を旨とすべし」を見直す必要があるかもしれませんね。

【情報】

森林・林業・木材産業 危機突破大会 が開催されます

森林・林業・木材産業を取り巻く経済環境は一段地厳しくなってきました。石油・鉄鋼をはじめとして値上げ攻勢が続いている中、木材だけは価格のしわ寄せを受けております。二酸化炭素を固定し、環境に貢献している木材がこういう状態でよいのでしょうか。現状を認識し振興に向けての意思統一を図る大会です。ぜひ参加してください。

日時 7月3日(木) PM1:30~2:30

場所 ベイサイドガーデン(ジャングルパーク) TEL099-255-1441

主催 鹿児島県林政対策協議会

問合せ先 (財)鹿児島県林業会館 TEL 099-222-4276

鹿児島県工業技術センター研究成果発表会 が開催されます。

平成20年度の成果発表会です。木材関係は「県産材を利用したウッドカーの簡易工法」や「木材接合における高信頼度化技術の確立」などが発表されます。

日時 7月17日(木) PM1:00~4:45

場所 県工業技術センター TEL0995-43-5111

【定休日】

7月は5, 6, 12, 13, 20, 21, 26, 27日となります

8月は3, 13, 14, 15, 16, 17, 24, 31日となります

ご協力をお願いします。

(お問い合わせは、お客様サービス係の東野まで)

